Satisfactory

2021年2月8日
株式会社サティスファクトリー
作成者　S.W.

S REPORT　サステナブルレポート No.74

プラスチック資源循環戦略の実現性を高めるために

廃棄物　再資源化　リサイクル

Confidential information. Unauthorized use, reprinting, or reproduction is strictly prohibited. Satisfactory Group All Rights Reserved.

廃プラの行き場を失った日本、意気込みを感じる政府の姿勢

Satisfactory

■ 近年のプラスチック利用に係る経緯

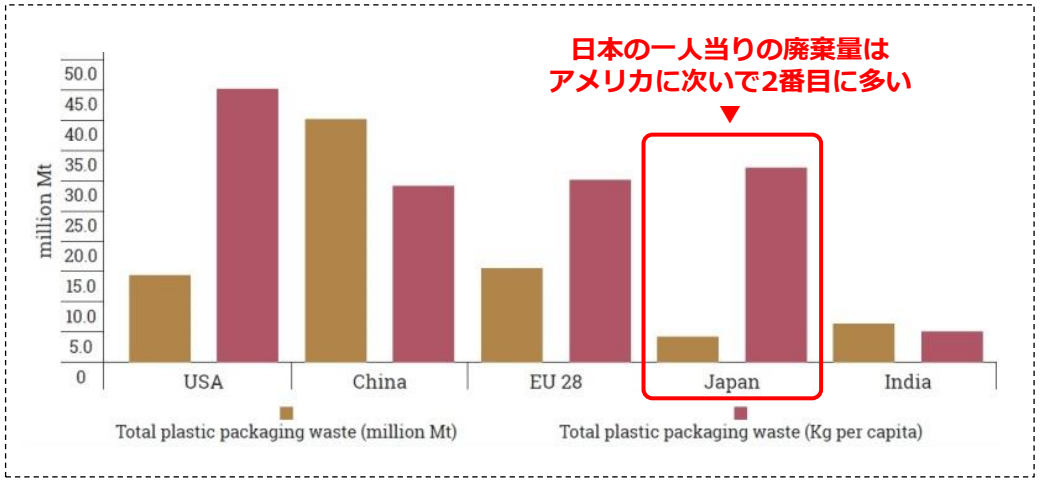
- 中国の廃プラ輸入規制を受け、国内で18年振りに**リサイクルされない未利用の廃プラスチックが増加**。
  2017年128万トン→2018年142万トン。（プラスチック循環利用協会による）
- 廃棄物の**処分場不足**も深刻化。（平成29年時点で全国の最終処分場の残余年数は16.4年、環境省による）
- 2018年4月、政府は「第五次環境基本計画」を閣議決定。 SDGsやパリ協定を背景とする。
- 2019年5月に策定された「**プラスチック資源循環戦略**」では環境省はじめ、**複数省庁を横断**して取り組まれる。
  （環境省、消費者庁、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省）

■ プラスチック資源循環戦略の目標

廃プラスチックのリサイクルと再生プラスチック利用を軸足に、世界のトップレベルの野心的マイルストーンを目指す。（下記は抜粋）

Reduce	Reuse/Recycle	Biomass
ワンウェイプラ 2030年までに累積で	使用済みプラ 2035年までに	バイオマスプラ 2030年までにおおよそ
25% 排出削減	**100%** 有効利用	**200%** 導入

■ 廃プラスチック容器包装廃棄量の国際比較



出典：Geyer, Jamback, and Law 2017

生活者の危機感と行動変化は比例しているのか

Confidential information. Unauthorized use, reprinting, or reproduction is strictly prohibited. Satisfactory Group All Rights Reserved.

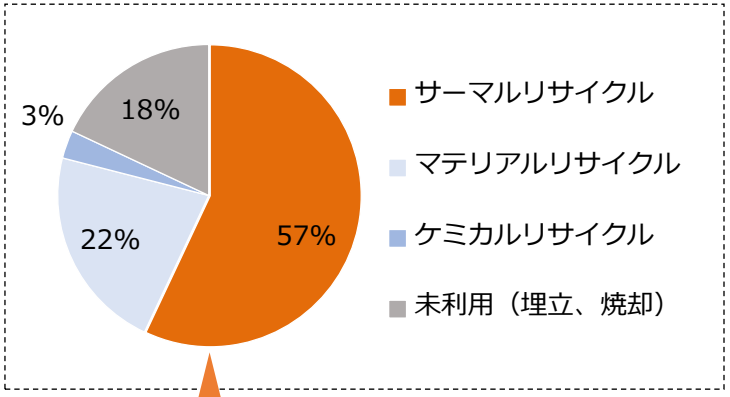
ルール化に適応する生活者、リサイクル方法に言及できるか

Satisfactory

■ 環境意識の有無を言わさず促される行動変化

- 1970年代に資源ごみの分別収集がはじまり、1980年代には全国的に広がった。各市町村で定める基準に従って、**ごみの分別意識は家庭に広く浸透**している。
- 2020年7月のレジ袋有料化後、**レジ袋辞退率は70%以上、マイバック持参率は90%以上**に。
- 2022年度の施行をめざす「プラスチック資源循環促進法案」では、**飲食店等でのプラスチック製のストローやフォークの削減**を義務付ける。

■ 国内プラスチック処理方法



プラスチック処理の約6割は焼却による熱利用

（グラフ：環境省28年度報告を基に筆者作成）

■「熱回収」以外の活用方法でワンウェイプラを減らす

国際的にはリサイクルと認められないサーマルリサイクルから原料レベルで再利用できる循環型の手法へ

マテリアルリサイクル

「材料リサイクル」「再資源化」「再生利用」とも言い、製品原料として再利用することを主眼としたリサイクル手法。

ケミカルリサイクル

プラスチックを再び油化、ガス化して化学原料としたり、燃料油やコークス炉の化学燃料として再利用する手法。

焼却せず循環できる再生原料の確保が鍵に

Confidential information. Unauthorized use, reprinting, or reproduction is strictly prohibited. Satisfactory Group All Rights Reserved.

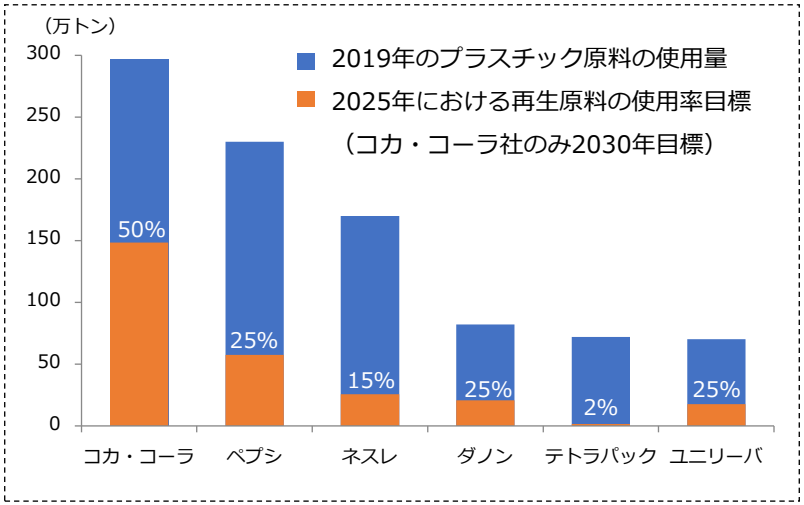
再生原料の需要拡大が循環を促し市場を創る

Satisfactory

■ 価値が上がる再生原料

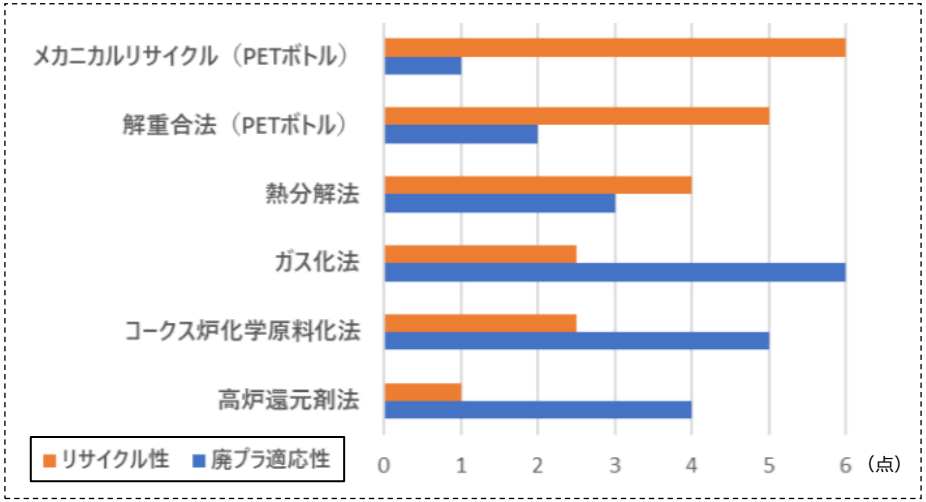
- 国内外を問わず**企業の再生プラスチック原料への利用増加**が急速に進む。
- 大手メーカー各社の2025年再生プラ原料確保の目標値は、おおむね現在の数倍。供給の逼迫が懸念される。
- 特に再生PETの需要は増加傾向にあり、2019年後半からペットボトルの**落札価格が上昇**。
- ポリエチレン (PE)、ポリプロピレン (PP)、ポリスチレン (PS)、ポリ塩化ビニル (PVC)といった製品使用の多い素材も同様の傾向が予測される。

■ 企業のプラ原料使用量と再生原料使用率目標



（グラフ：Ellen MacArthur Foundationの情報を基に著者作成）

■ ケミカルリサイクル手法のリサイクル性と廃プラ適応性



（グラフ：旭リサーチセンター，1位が6点、6位が1点）

再生回数を重ねても質が低下しない原料開発へ

Confidential information. Unauthorized use, reprinting, or reproduction is strictly prohibited. Satisfactory Group All Rights Reserved.

■ 資源循環を目指す企業を取りまとめる意義（リサイクル大口需要企業の取り込み）

- 世界各国が掲げるプラスチック利用の政策。その**目標達成には、プラスチック容器包装を大量消費する企業が、再生品を循環利用すること**が必要不可欠。特にグローバル企業の動向は注目され、ネスレやコカ・コーラなどは使用素材の見直しを行い、リサイクル可能なものへ切り替えや再生プラスチック使用比率を高める独自の目標を掲げて取組む。
- Ellen Macarthur Foundationらのプラスチック削減活動**「New Plastics Economy Global commitment」**には、400以上の機関やグローバル企業が参画する。参加企業が**取り扱うプラスチック量は世界全体の20%以上**を占め、**大口需要家の取りまとめ**役になっている。
- 日本では花王が「ワンウェイプラスチックの水平リサイクルに向けた資源循環型モデル事業」の実証実験を行う。プラスチック製商品の**マテリアルリサイクルを行い、同時に再生プラスチック原料を確保**するもの。しかし、花王のような国内大手でも、他のグローバル企業と比較して**再生プラスチック原料の需要は小さく限定的**である。「プラスチック資源循環戦略」に掲げる目標を達成するためには、多数の企業の需要を取りまとめ、プラスチックの回収、リサイクル、再生プラスチックの供給のフローを作ることで、実現可能性を高められる。

情報提供から実行支援まで
SDGs・ESGの企業対応を
支援しています。
何から取組み始めればいいかわからない
経営層や社員への浸透に悩んでいる
SDGs・ESG投資に関する社内セミナーや
社員研修を行いたい

無料！
お問い合わせ／お見積もり
お急ぎの方はお電話で
03-5542-5300
受付時間 9:00〜19:30

Confidential information. Unauthorized use, reprinting, or reproduction is strictly prohibited. Satisfactory Group All Rights Reserved.

参照・引用資料

- Gyoppy, 「プラスチック問題は60年前からあった」,2020年4月20日（ https://gyoppy.yahoo.co.jp/featured/129.html ）
- 環境省, 「プラスチック資源循環戦略」,2019年5月53日（ https://www.env.go.jp/press/files/jp/111747.pdf ）
- 環境省, 「プラスチックを取り巻く国内外の状況」,2020月11日2日（ http://www.env.go.jp/council/03recycle/y0312-05/s1.pdf ）
- UNEP, 「 Single-use Plastic 」,2018年6月5日（_https://www.unenvironment.org/news-and-stories/press-release/new-report-offers-global-outlook-efforts-beat-plastic-pollution ）
- プラスチック循環利用協会, 「プラスチックリサイクルの基礎知識」,2020年6月（ https://www.pwmi.or.jp/pdf/panf1.pdf ）
- Ellen Macarthur Foundation, 「 New Plastics Economy Global Commitment」,2018年（ https://www.newplasticseconomy.org/projects/global-commitment）

サステナブルレポートに関するお問い合わせ先：

SREPORT　編集部　☎ 03-5542-5300　✉ info@sfinter.com

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥 当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

Satisfactory

全従業員で
毎週更新中

https://www.sfinter.com/report/

Confidential information. Unauthorized use, reprinting, or reproduction is strictly prohibited. Satisfactory Group All Rights Reserved.